Project No.
37 | ヘルスケア

えひめ！みんなでこどもまんなかチーム

採択事業者名 株式会社Kids Public

コンソーシアム構成員 株式会社Kids Public｜株式会社エルパティオ｜株式会社Publicus

目 的

子育ては一人で行うものではなく、多くの人が関わり、愛情を注ぐことで子どもが健全に成長する。本事業は、子どもに一番身近な保護者を地域全体で支えることで、子育てで孤立する人をなくし、社会全体で子どもを育てる環境を作ることを目指す。そのために、子育て中の保護者に対して、①専門家にいつでも相談できる安心②身近に相談できる人のいる安心の2つの安心を提供しすることを目指す。

課 題

ワンオペ育児など保護者のみで子育てをすることの負担感は社会的な課題になっており、多くの保護者が子育ての孤立を感じ、少子化の一因にもなっている。子どもに最も身近な保護者が孤立せずに子育てを行うことは、子どもの健全な成長に非常に重要な要素である。そのためには社会・地域に頼れる関係性を作る必要がある。

解決策

オンラインで小児科医・助産師に相談できる「産婦人科オンライン・小児科オンライン」を県内の子育て中の保護者に無料で提供した。その際に、地域の子育て支援の団体・企業からアカウントを配布していただく形をとることで、地域の中に身近に相談できる人との関係を作ってもらうことを目指した。

検証項目	成果・結果
デジタルサービスの地域実装のUX 産婦人科オンライン・小児科オンライン自体は すでに多くの大企業・自治体で導入され、 ユーザーの評価も高い。 自己資金で導入できない地域団地・ 中小企業への実装により幅広いリーチを目指す	**利用実績** ●利用権利数：2,651人 ●登録者数：251人 ●導入団体数：40団体 ●ユーザー満足度（再利用意向）：100% ●相談回数：121回
取り組み内容	
地域団体からの申込み受付 本事業の趣旨を理解し、導入をしてくれる団体・企業の募集 **地域団体を通じたアカウント配布** 企業を通じてアカウントを配布するとともに、 一般ユーザーにPRを行うことでアカウント 配布団体との関係性を構築・強化する	

今後の見立て・意向

本年度は、6ヶ月弱という短期間での立ち上げからサービスのPR・実装を行ったため、実質4ヶ月の稼働であった。スピードを重視し、本サービスへの共感と意思決定が早い地域団体・中小企業が主なターゲットとなった。
しかし、真に孤立している人ほど地域の団体との繋がりもなく、また職場を通じてのリーチでは、子育て支援に関心のない職場、個人事業主、失業者にもリーチできない。そのため、様々な主体を増や社会全体が子育ての支援をすることに関心を持ち、出来る範囲で行動すること。また、子育てに直接的に関わらない人にも応援をしてもらえる仕組みづくりも重要である。
本事業では、直接的に子育てに関わらない人からも、応援する・できることをするという「関わりしろ」を作ることを目指す。
最も簡単な応援は、オンライン相談サービスの紹介・拡散である。これらの行為を推奨するPR・コミュニケーション活動を進めながら、導入団体を増やし、リーチを拡大していくことを目指すことが重要である。

取得データ

●団体：規模・所在地・業種
●個人：子供の状況・親の年齢・サービスでの説明の理解度・再利用意向

データ活用による考察・示唆

団体の内訳を分析したところ、子供向けのサービスを提供企業、一般の飲食店・小売業なども見られた。
当初企業の利用は従業員向けを想定していたが、顧客に向けて本プロジェクトを告知している団体が多いことは想定外であった。特に、子供向けのサービスに関しては、100～1,000程度のアカウントの告知をしており、非常に拡散力が強い。

Copyright © EHIME Prefecture. All rights reserved.